

平成27年(2015年)8月11日(火曜日)

モーター・溶接電極向け銅合金 アジア、米州で拡販 鉄道関連への販売強化

大和合金

銅合金の鑄造・鍛造品メーカーである大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は、鉄道関連市場での販売を強化している。アジアや米州な

ど海外を中心に、モーター向け鍛造品や抵抗溶接用の電極材の販売を拡大。加えて鉄道部品用の銅合金の開発にも取り組んでいる。世界的に拡大が見込まれる市場を捕捉することが狙い。商圏や商材を広げながら同分野での売り上げを、長期的に年率数%ずつアップさせたい考えだ。

日系の大手重電メーカーが中心的な顧客となっている。鉄道モーター向けの鍛造品ではクロム・ジルコン銅でモーター両端部に用いるリング部品を製造。加えて車両の製造などに用いる電極用溶接材でクロム銅品を供給し

ている。昨今ユーザーでは海外市場を捕捉する取り組みが活発化しており、大和合金もその動きに対応。鑄造・鍛造品の出荷を増やしている。

鉄道部品向け銅合金の研究開発では、外部の研究機関と連携しながら耐摩耗性を高めた素材の実用化を目指している。萩野社長は「受注は海外関連を中

心に安定的に伸びている。今後も高品位なモノづくりを続けつつ、納期対応にさらに力を入りたい」としている。